



河津様 松田様 加藤様
暑いの厳しい日が続きますが、いかが
お過ごしでしょうか？
四月から三期にわたる集中型のリハビリ
では、本号にお世話になりました。感謝の
気持ちでいっぱいです。
元気が、お母が、おれ、歩ける、話せば
くは、た、こは、本人も絶望を感じたと思
い、お母が、娘の私。そして家族も闘いの中に
突き落とされ、悲しさを苦しみの日々でした。
麻痺へのリハビリをして頂いたことにより



その時の丁寧な対応や正直な説明
で、一度、この目で見えぬか、と思ひ初めて
一人、名古屋に行かれた。実際にリハビリ
をして、こころを目の当たりにして、お母を連れて
こようと思ひました。あの時の私を感じた
ものは本物だったと、今改めて感じています。
四月の一回目から、失語症もあり、大変は
お母とも、行けずあきらめず、情熱的に行って頂いた
こと、足を動かすのはなく、とにかく“考える”
こと、“脳の損傷”だったことに気づけたことは、
変わる。回復・改善につながる一歩だった



少しずつ、前を向くことはできましたが、
“少しでも元の生活に戻りあけたい”、“元
のお母に会ってほしい”という想い、1年
経てもふくらむばかりでした。
倒れから毎晩毎晩、インターネットで検
索し続け、東京、仙台と探したり、問
合わせしたりしました。お母ともお母を連れて
いきたいと思ひ、こころには出逢えず、悩む
日々でした。そんな時に、河津先生の“あきら
めぬ、麻痺へのリハビリ動画”や“想”
と出逢い、お電話しました。



と思ひ、自分でもくり返し足を動かして
リハビリをしてきただけに、根気強く、回復
するを信じ、リハビリをし続け、度々、お母
も私も私にとっては、本号にすばらしい先生方
と出逢えたこと、感謝と喜び、そして教師としての
私自身の学びにもなりました。
麻痺への情熱的リハビリをして頂
き、一期をすくすく歩けるお母になり、考えれば
ご言葉も出てきた”このことも驚きました。
私以上に、悲しさを苦しみで見せたいだった
お父は、こころも喜び、二度目の名古屋行き





ほろろに決まりました。
二期目は、動くこと以上に“考えること”理解
しやすくなることと丁ねいた加藤先生に
頂きました。難しいことの連続で、考えることが
追いつかず、落ち込みも増えました。
私も不安にも子どもと同時に、改めて難しくを
感じました。それでも私たちが要望も 温かく
受け入れて頂いたので、そこに大切なことは信
念をもってリハビリに頂きました。より考えさせ
る“母本人が考える”ことの大切さも学びました。
そして三期、安定さを求めて ふうかがいほ



した。考えること、動きに力をつけることの両方を
しつかり実践に頂き、福島に戻り、生活が
とても楽になると共に、もっと歩けるようにな
りた…と母も思うこともできるようにになりま
した。隣にピロリッパ…である生活から、少し余
裕を持って見守れるように大きく変え、たこと
は、私の負担も減らと共に、母の自由も争に
入ることにつながりました。



松田先生が、最後に“母に目標をもつことの
大切さや父だけに頼らぬ…この心のあり方”
を話して下さいました。とてもとても、今につば
かり、母はより歩こう、できることを増やそう
と思えるがんばりです。“物を持て歩ける
ようにしたい”“お父さんに負担をかけないように
できることを増やしたい”が目標となり、とてもか
んばり、林先生とMLから寝室を、約50歩、歩
いた日もあります。“目標=心”大切ですね。
偉も心も元気にして下さい。三人の先生方に
心から感謝しております。ありがとうございます。



河津先生、松田先生、加藤先生との出逢い
で、希望も与えて頂きました。父のこともあり、
帰省した後、十分にリハビリできているませんが、
9月11日、お母さんとできることとした…と思っております。

心ばかりですが、岩手と宮城の両方を送り、
お通いも返上し、リハビリに頂きありがとうございます。
ごさいました。先生方もお身体には、お気をつ
けてお過ごし下さい。本当に本当にありがとうございます。

Har. 9.7 (木)
娘、加藤裕子

